

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
基礎	1	情報リテラシー	1	20	1年次前期	院内講師 非常勤講師	○

テキスト (発行所)	なし 資料を配布する
副教材、 参考図書	なし

学習のねらい

1. 情報社会の現状を学び、情報リテラシーを向上させる。
2. 患者がうける看護や医療は、多くの研究や実践から導き出された科学的根拠に基づいて選ばれるべきである。本授業では、科学的な根拠に基づいたデータを見極めるために大切な論理的手続きについて学ぶ。また、そのようなデータからどのように意味のある情報を引き出すか、基本的な統計知識をおさえ、看護や医療に必要な根拠に基づいた情報を精査できる力を身につける。

学習目標

1. 社会における情報のIT化について学び、日常生活や医療の場面での情報倫理を理解する。
2. 科学的な論証手続き、根拠に基づいたデータを獲得するために大切な手続きを知る
3. 統計学の利点と注意点を理解できる
4. 記述統計の技法を知り、データの特徴を把握することができる
5. 推測統計の手続きを知り、手元にあるデータから全体の傾向を推測する方法を知る

各回の主題、履修形態

院内講師(6時間：講義内容の予定)

第1回 様々なデータと情報管理、インターネットセキュリティ

第2回 ソーシャルネットワーク

第3回 病院で取り扱う個人情報

非常勤講師（14 時間：講義と演習）

第 1 回 医学・看護統計学の意義 統計の利点と注意点

第 2 回 記述統計 代表値と散布度

第 3 回 相関分析

第 4 回 質問紙法の特徴と注意点について

第 5 回 推測統計の導入 EBM と実証的なデータをとるときの注意点

第 6 回 推測統計の考え方

第 7 回 実際の研究計画と検定

単位認定の方法

20 時間のうち 16 時間以上の出席があること

終講レポートまたは試験で 100 点中 60 点以上の得点があること

受講上のアドバイス

ノートパソコン又はタブレット端末などを用いた授業内容になるので、校内での使用上のルールを守って学習をすすめてください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
基礎	4	学びの技法 I	1	30	1 年次通年	非常勤講師 専任教師	○

テキスト (発行所)	藤川とも子著、マンガでわかる！すぐに使える NLP 日本実業出版社 辰元宗人、マインドマップでつながる！わかる！解剖機能症状疾患 配布資料
副教材、 参考図書	講義の中で紹介

学習のねらい

創造的思考力、批判的思考力(クリティカルシンキング)、概念的思考力、内省的思考力が統合できるように、体験的に学ぶ技法を身につける。

学習目標

1. 数・ことば・絵・形などを使った多様な学び方を体験することを通して、さまざまな学習方法を理解する。
2. マインドマップの理論を学び、日々の学習や臨地実習で活用することができる。
3. 新しい学び方を身につけ、情報や知識を活用するための思考力を身につける。

各回の主題、履修形態

第1回、第2回：講義・演習（専任教師担当）

マインドマップ入門、マインドマップの基本と活用方法

第3回：講義・演習

NLP (Neuro Linguistic Programing) 入門

NLP学習にあたり、TEFCASとは

第4回：講義・演習

Doodle を使って考える・表現する

第5回：講義・演習（専任教師担当）

看護学で活用するためのマインドマップ・グループマインドマップ

第6回：講義・演習

数で表現する、数のメッセージ

第7回：講義・演習

文字・ことばが伝えるもの、伝わるもの

第8回：講義・演習

自分の特長（感覚）と学習スタイル（NLPワーク）

第9回：講義・演習

メタ認知について

第10回：講義・演習

NLPワーク（感覚器官を使ったワーク）

第11回：講義・演習

ゼンタングル

第12回：講義・演習

臨床美術（色、形）

第13回：講義・演習

NLPワーク

第14回：講義・演習

経験学習と対話（質問カード）

第15回：講義・演習

まとめ

準備物品

時間割提示の際に指示する

単位認定の方法

30時間のうち24時間以上の出席があること

毎々の振り返り50% と終講レポート試験50%

受講上のアドバイス

自分の特長に合わせた学び方を知ること、他者にとっての学び方を尊重できるようになってほしいと思います。

看護師として対象者によりそい、その人らしい学びを支えられるように、自らも新しい技法を身につけるべく一歩を踏み出しましょう。

真剣に、ともに学びの時間を楽しみましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
基礎	7	いのちとセルフケア	1	30	1年次前期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	医療原論（医歯薬出版） 渡邊勝之編著 医学・医療原論（錦房） 渡邊勝之編著
副教材、 参考図書	医学・看護・福祉原論（ビーイング・ネットプレス） 渡邊勝之編著

学習のねらい

東洋伝統医学的な、からだところの構造と機能および養生(セルフケア・自助)について学ぶ。医学・医療の歴史をふまえ、身心技法を学ぶ。

学習目標

伝統医学は、西洋医学の概念にはない、気・経絡などを重視する医学です。また、病気を治すことよりも、病気にならないように養生すること、元気を重視します。その具体的な方法を学び、体験する。

各回の主題、履修形態、

伝統医学について、東洋医学の診察法、看護に活かす診察法・手当・セルフケア

第1回（講義）医学・医療・看護・福祉とは1

第2回（講義）医学・医療・看護・福祉とは2

第3回（講義）生命観・身体観・健康観・疾病観1

第4回（講義）生命観・身体観・健康観・疾病観2

第5回（講義）世界三大伝統医学について&身心技法1

第6回（講義）インドの伝統医学：アーユルヴェーダの歴史および自然観と身体観

第7回（講義）ギリシャの伝統医学：ユナニ・ティブの歴史および自然観と身体観

第8回（講義）近代医学の発祥および伝統医学との相違

第9回（講義）中国の伝統医学：中医学の歴史および自然観と身体観

第10回（講義）日本の医学の歴史1

第11回（講義）日本の医学の歴史2 & 身心技法2

第12回（講義）東洋医学の診察法1（全身望診・局所望診：古診・顔面診・爪甲診）

第13回（講義）東洋医学の診察法2（問診・問診・切診：腹診・背診・反応点 など）

第14回（講義）東洋医学の診察法3（脈診および四診合参：診察法のまとめ）

第15回（実技）看護に活かす、診察法・手当て・セルフケア 2グループに分かれて実施

準備物品

その都度提示する

単位認定の方法

1. 30時間のうち、24時間以上の出席があること
2. レポート評価における60点以上の得点
3. 平常点およびレポートを総合して、単位認定を行う

受講上のアドバイス

東洋も西洋もほとんど同じ、自然観・身体観に基づいた医学・医療が実践されていた。

ルネッサンス以降、近代医学は伝統医学と大きく袂を分かち、独自に発展を遂げ、現在に至っている。また世界的には、統合医療が注目され、病気の治療から健康に重心が移行しつつある。

伝統医学と看護学は類似性が非常に高い。伝統医学の基礎を理解し、看護師として、臨床現場で役立てて頂きたい。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
基礎	8	社会学	1	30	1年次前期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	ふれる社会学 ケイン樹里安・上原健太郎編（北樹出版）
副教材、 参考図書	

学習のねらい

社会的存在である人間を理解するとともに、社会現象を多面的にとらえる視点を学ぶ。

学習目標

1. 「社会学的なものの見方」を習得する。
2. 社会学的なものの見方を学び、自らの日常を違った角度からいま一度眺めてみる。

各回の主題、履修形態（講義、視聴覚教材）

回数	主題	学習内容	履修形態
1	社会学とは	社会学と社会科のちがい	講義
2	パフォーマンスする人々	・行為と演技 ・印象操作	講義
3	「就活」からわたしたちの社会を考える	・自己呈示 ・文化装置	講義
4	あなたが「労働」で売りにしているものは？	・感情労働 ・やりがいの搾取	講義
5	都市-観光・文化	・観光のまなざし ・地域アイデンティティ	講義
6	「足元」から社会を考える	・節合（アーティキュレーション） ・経路（ラウツ）	講義
7	ジェンダー（「男らしさ」「女らしさ」とは）	・ジェンダー ・社会構築主義	講義

8	理想の身体をつくる化粧・ダンス	・パフォーマティヴィティ ・表象 ・まなざし	講義
9	管理と教育	・まなざし/規律訓練 ・学校化社会	講義
10	「外国につながる子ども」・「ハーフ」	・エスニシティ ・帰属の政治/人種化	講義
11	差別感情はどこからくるのか	・社会学的想像力 ・ナショナリズム	講義
12	障害と家族の社会学	・障害の個人モデル/社会モデル ・近代家族論	講義
13	「魂」にふれる	・集合的沸騰 ・モノと記憶	講義
14	オリンピックの社会学	・「復興」と経済 ・スポーツの社会学	講義
15	まとめ	・「社会学する」こと ・試験について	講義

単位認定の方法

30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

終講試験又はレポート試験 100 点中 60 点以上の得点があること

受講上のアドバイス

社会学の基礎概念を学んだのち、具体的な社会現象についての理解と考察を深めるなかで、自身と社会とのつながりを捉え直せるようになることを目指します。そのため日頃からニュースや新聞等で時事に積極的に目を通しておくこと。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
基礎	9	心理学	1	30	1年次後期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	なし
副教材、 参考図書	

学習のねらい

心理学の基礎理論を通して、心身の発達と心の動きに関する要因や、人間関係を築くための基礎を学ぶ。

学習目標

1. こころの発達やこころの現象について理解する。
2. 自己と他者のあり方、および対人関係の中で生じるこころの動きについて知る。
3. こころを眼差す姿勢をいかに看護へ活かすか考える。

各回の主題、履修形態（講義）

- 第1回 心理学について
対人認知と印象形成について
- 第2回 感覚と知覚 記憶
- 第3回 学習の仕組み、利用
学習理論の応用
- 第4回 動機づけについて
欲求を充足すること
- 第5回 円滑なコミュニケーションに向けて
- 第6回 発達心理学① 乳幼児から青年までの発達
- 第7回 発達心理学② 青年期・成人期の発達：精神分析より
- 第8回 パーソナリティ理論 心理検査について（前編）
- 第9回 心理検査について（後編）
- 第10回 ストレスとその影響 ストレスへの対処に向けて

第 11 回 こころの病、障害について

第 12 回 臨床心理学とは
心理療法・カウンセリング

第 13 回 深層心理学

第 14 回 心理療法の科学性
転移/非因果律的思考

第 15 回 看護と心理臨床

準備物品 なし

単位認定の方法

1. 30 時間のうち、24 時間以上の出席があること。
2. 終講後のレポートで 60 点以上を合格とする。

受講上のアドバイス

みなさんは普段、人の”こころ”についてどれぐらい意識していますか？

この授業では心理学を幅広く学び、こころに向き合おうとする際に役立つ知識や姿勢を身に付けていくことを目指します。心理学、というとなかなか取っつきにくく思われるかもしれませんが、こころについて考えるときの出発点は、みなさんが普段感じることや体験することです。それらを大事にしなが、授業を通して一緒にこころについて考えてみましょう。

この授業では心理学の基礎的な知識を学ぶとともに、こころの現象を考える際のひとつの視点として心理学の知見を参照できるようになってもらえればと思います。そして授業で学んだことを、これから自分自身や看護という仕事について考え、さらに患者さんに向き合っていく過程での手掛かりとしてください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
基礎	10	異文化論・ グローバルヘルス	1	30	1年次後期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	なし
副教材、 参考図書	ワークブック 国際保健・看護基礎論 ISBN : 9784861941498 田代 順子【監修】/堀内 美由紀/岩佐 真也【編】 P I L A R P R E S S (2016/03 発売)

学習のねらい

グローバルな視野から健康問題を考えることができ、その背景について興味を持つことができる。自分たちと他国の民族がもつ健康観や保健行動等との違いを理解し、それぞれの文化に適した看護を提供するための考え方を学ぶ。

また保健医療分野における国際機関の役割や活動を理解する。

学習目標

1. グローバル化における健康問題について理解する。
2. 保健医療分野における国際機関の役割や活動を理解する。
3. 途上国における保健医療の現状と課題、その背景にある歴史・文化・社会構造等を理解する。
4. 国際看護活動の実際を学び、看護活動で大事にしたいことが考えられる。

主題、履修形態、準備物品

1. グローバル化における健康問題
2. 保健医療分野における国際機関の役割と活動
3. 途上国における保健医療の現状と課題、その背景にある歴史・文化・社会構造
4. 国際看護活動の実際

第1回—第3回 ・世界の中の日本について知る 保健指標を読む

・「なぜルイスは死んだのか」社会的要因について考える(グループワーク①)

- 第4回—第6回 ・開発途上国とは。保健指標と人々の暮らしについて（グループワーク②）
- 第7回—第9回 ・プライマリーヘルスケアと国際看護活動の実際
 - ・国際機関の役割と活動（グループワーク③）
- 第10回—第12回 グループワーク②と③の発表とディスカッション
- 第13回—第15回 ・経済活動と発展（ゲームを通して考える）
 - ・貧困の連鎖について考える
 - ・平和と命について考える

単位認定の方法

1. 30時間のうち24時間以上の出席があること
2. プレゼンテーション（50点）とレポート（50点）の合計（100点）で評価し、60点以上で合格とする。

受講上のアドバイス

「なぜ、どうして」という疑問を持ち、自らその答えを模索することを重視しています。講義では、グループ、プレゼンテーションを予定しています。グループワークを通して自らの考え、調べたことを発言し、また相手の発言から、考え続けることの持つ意味を一緒に考えていきたいと思えます。積極的に授業に参加してください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
基礎	11	医療英語 I	1	30	1 年次後期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	English for Nursing 1 Vocational English Course Book, PEARSON
---------------	---

学習目標

- 他言語（英語）を学び、積極的にコミュニケーションを図ろうという意欲がもてる。
医療や臨床で使う英語を学び、使えるようになる。

15回の主題

1. Unit1 Meeting Colleagues
 - 1) Introducing yourself to the team
 - 2) Reading a nurse schedule
 - 3) Meeting patients their visitors
 - 4) Escorting a patient for tests
2. Unit2 Nursing assessment
 - 1) Checking patient details
 - 2) Describing symptoms
 - 3) Assessment common childhood diseases
 - 4) Taking a blood sample
3. Unit3 The Patient Ward
 - 1) Monitoring body temperature
 - 2) The patient ward
 - 3) Nursing duties
 - 4) The qualities of a responsible nurse
4. Unit4 Food and measurements
 - 1) Hospital food and beverages
 - 2) Measurement and quantities
 - 3) Helping a patient order from a hospital menu
 - 4) Assisting the patient at mealtimes

単位認定の方法

1. 30 時間のうち、24 時間以上の出席があること
2. 会話のテスト 60 点以上で合格

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
基礎	13	人権と赤十字	1	30	1年次後期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	特に無し
副教材、 参考図書	1. 井上忠男：戦争と国際人道法 ―その歴史と赤十字のあゆみ―，東信堂，2015. 2. 柘居孝・森正尚：新版 世界と日本の赤十字 ―世界最大の人道支援機関の活動，東信堂，2014. 3. Pikitet, J：井上忠男訳：解説 赤十字の基本原則 ―人道機関の理念と行動規範―，東信堂，2006.

学習のねらい

今日の人道上の問題を取り上げ、国際人道法の成り立ち、原則およびその履行確保について学ぶ。人道支援を行うに必要な行動規範について学び、人道の実践者となる看護師として必要な資質を身につける。

学習目標

1. 国際赤十字・赤新月運動の歴史、理念、活動について理解する。
2. 赤十字と国際人道法の基本原則、赤十字標章の正しい使い方、有事の行動規範等について理解する。
3. 人道と人権の概念の理解を深め、人間尊重の文化の担い手としての自覚を養う。

各回の主題、履修形態、準備物品

回数	月日	主題
1	4/22	ガイダンス・グローバル化について考えてみよう
2	5/6	国際赤十字・赤新月運動とは？
3	5/13	アンリ・デュナンと赤十字の誕生
4	5/20	佐野常民と日本赤十字社の創立
5	5/27	国際赤十字・赤新月運動の基本原則
6	5/27	国際赤十字・赤新月運動の基本原則の適用とその実際
7	6/3	日本赤十字社の組織と活動
8	6/10	赤十字標章の意味と適正使用
9	6/17	国際人道法の基礎知識

10	6/24	人道と人権
11	7/1	国際人道法の履行確保
12	7/15	現代の武力紛争と国際人道法
13	7/15	世界の人道支援機関とその行動規範
14	7/22	人間の安全保障
15	7/29	グローバル世界と赤十字（まとめ）

単位認定の方法

1. 30 時間のうち、24 時間以上の出席があること
2. 授業への参加度 10%、プレゼンテーション 20%、レポート 70%

受講上のアドバイス

活発なディスカッションができるよう、日々のニュースなどに関心を持ち、各講義のテーマに問題意識をもって参加すること

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	14	赤十字活動論	1	15	1年次後期	専任教師 非常勤講師	○

テキスト (発行所)	1. 赤十字の仕組みと活動 令和3年度版 2. アンリー・デュナン伝 赤十字はこうして生まれた：ピエール・ボワシエ著 廣渡太郎訳 3. 佐野常民伝 : 日本赤十字国際人道研究センター
副教材、 参考図書	

学習のねらい

看護の原則である人道を実践するために、国や地域を越えて活動している組織について学び、人々のいのちと健康、尊厳を守るための基礎的能力を身につける。

学習目標

1. 赤十字の歴史、基本原則、組織、諸活動について理解する。
2. 人道支援の基本となる原則を踏まえた看護活動や行動について理解する。
3. 人道支援の担い手となる自覚を持つことができる。

各回の主題、履修形態、準備物品

回数	主題	学習内容	履修形態
1	赤十字の歴史・組織・基本原則	赤十字の発祥・歴史 赤十字組織の仕組みと役割	事前学習 副教材
2 3	日本赤十字社の事業①	日本赤十字社の事業について 調べて、発表する	GW・発表
4	日本赤十字社の事業②	血液事業	血液事業実践者の方の講義
5 6	人道的な看護活動	赤十字看護師の活動	DVD 視聴 GW

7	国際的な人道活動	国際救援活動実践者による活動から学ぶ	講義
8	人道支援の担い手となるためには	基本原則から考える	GW

単位認定の方法

1. 15時間のうち、12時間以上の出席があること
2. グループワークの成果 30点・レポート 20点・終講テスト 50点 合計 60点以上で合格

受講上のアドバイス

「人権と赤十字」の講義と合わせて赤十字の起こりについて学び、その考え方を理解した上で、学校や身近な日常生活の中や社会の出来事にも関心を寄せ、人道支援を実践する組織の一員として社会や人のために何ができるのか、について考えていきます。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	15	解剖学 I	1	20	1 年次前期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	人体の構造と機能[1]解剖生理学 (医学書院)
副教材、 参考図書	

学習のねらい

正常な人体の構造について理解し、疾病の成り立ちを学ぶ前提とし、フィジカルアセスメントや日常生活の営みを支える看護の基礎的知識とする。

学習目標

1. 人体の概要と解剖学的用語を理解する。
2. 人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。

各回の主題、履修形態、

- 第1回 (講義) 解剖学総論 1
- 第2回 (講義) 解剖学総論 2
- 第3回 (講義) 骨格 1
- 第4回 (講義) 骨格 2
- 第5回 (講義) 筋肉
- 第6回 (講義) 循環器
- 第7回 (講義) 呼吸器
- 第8回 (講義) 消化器 1
- 第9回 (講義) 消化器 2
- 第10回 (講義) 泌尿器

準備物品 必要時提示する

単位認定の方法

1. 20時間のうち、16時間以上の出席があること。
2. 評価は、2回の試験を行う。
 - 1) 試験は、講義の進行中に1回目（第1回～5回）、
終講後に2回目（第6回～10回）の試験を実施する。
 - 2) 試験は各回を50点満点で行い、合算したものを成績とする。

受講上のアドバイス

解剖学は医療にかかわる仕事をして行くうえで、基礎になる分野です。

解剖の正しい知識は、これから学んでいくすべての専門科目の土台となるだけではなく、病院での医療をより深いものにしてくれるでしょう。

最初は覚えることが多く、大変だと思いますが、徐々に、日常不思議に感じていた身体のしくみが明らかになっていく喜びを感じると思います。頑張ってください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	16	解剖学Ⅱ	1	20	1年次前期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	人体の構造と機能[1]解剖生理学(医学書院)
副教材、 参考図書	

学習のねらい

正常な人体の構造について理解し、疾病の成り立ちを学ぶ前提とし、フィジカルアセスメントや日常生活の営みを支える看護の基礎的知識とする。

学習目標

1. 人体の概要と解剖学的用語を理解する。
2. 人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。

各回の主題、履修形態、

- 第1回 (講義) 内分泌
- 第2回 (講義) 発生
- 第3回 (講義) 神経系 1
- 第4回 (講義) 神経系 2
- 第5回 (講義) 神経系 3
- 第6回 (講義) 生殖器 1
- 第7回 (講義) 生殖器 2
- 第8回 (講義) 感覚器 1
- 第9回 (講義) 感覚器 2
- 第10回 (見学) 解剖学教室見学(京都府立医科大学)

準備物品

必要時提示する

単位認定の方法

1. 20時間のうち、16時間以上の出席があること。
2. 評価は、2回の試験を行う。
 - 1) 試験は、講義の進行中に1回目（第1回～5回）、
終講後に2回目（第6回～10回）の試験を実施する。
 - 2) 試験は各回を50点満点で行い、合算したものを成績とする。

受講上のアドバイス

解剖学は医療にかかわる仕事をして行くうえで、基礎になる分野です。

解剖の正しい知識は、これから学んでいくすべての専門科目の土台となるだけではなく、病院での医療をより深いものにしてくれるでしょう。

最初は覚えることが多く、大変だと思いますが、徐々に、日常不思議に感じていた身体のしくみが明らかになっていく喜びを感じると思います。頑張ってください。

解剖学教室での見学は、貴重な機会です。事前の準備を十分にして臨みましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	17	生理学 I	1	30	1 年次後期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)
副教材、 参考図書	

学習のねらい

正常な人体の機能について理解し、解剖と関連させながら、器官系を有機的に結びつけて働き・生体反応をとらえ、看護を実践するための基礎的知識とする。

学習目標

1. 人体の概要と解剖学的用語を理解する。
2. 人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。

各回の主題、履修形態

- 第1回 (講義) 骨格筋 1
- 第2回 (講義) 骨格筋 2
- 第3回 (講義) 循環器
- 第4回 (講義) 呼吸器 1
- 第5回 (講義) 呼吸器 2
- 第6回 (講義) 消化・吸収・代謝 1
- 第7回 (講義) 消化・吸収・代謝 2
- 第8回 (講義) 消化・吸収・代謝 3
- 第9回 (講義) 代謝
- 第10回 (講義) 腎機能 1
- 第11回 (講義) 腎機能 2
- 第12回 (講義) 血液
- 第13回 (講義) 血液型・体温調節
- 第14回 (講義) 体液調節 塩酸基平衡 1

第15回（講義）体液調節 塩酸基平衡2

準備物品

なし

単位認定の方法

1. 30時間のうち、24時間以上の出席があること
2. 100点満点のうち60点以上で合格

受講上のアドバイス

生理学は、人体の構造と機能を理解するための重要な科目である。

解剖学・健康と生化学や疾病論基礎の内容を想起しながら講義に臨んでほしい。

ここで学んだ知識が、臨床での看護を行う際の臨床判断力を強化していくことでしょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	19	健康と生化学	1	30	1年次前期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	わかりやすい生化学 第5版(ヌーヴェルヒロカワ)
副教材、 参考図書	

学習のねらい

看護の対象者への健康管理(健康の維持・疾病の予防)で活用するために、臨床生化学の基礎知識を学ぶ。

学習目標

1. 生体の成り立ちと最小基本単位である細胞の構造や役割について理解する。
2. 生体を構成している基本物質について理解する。
3. 遺伝情報の保存、発現について、病気と遺伝子との関係について学ぶ。
4. 生体で起きている代謝機能について理解する。
5. 生体の防御機能である免疫反応について理解する。

各回の主題、履修形態

- 第1回(講義) 授業ガイダンス
生物と生化学 生体の成り立ち
- 第2回(講義) 細胞の生物学
- 第3回(講義) 遺伝子の本体1
- 第4回(講義) 遺伝子の本体2
- 第5回(講義) 遺伝子変異と疾患
- 第6回(講義) タンパク質科学1
- 第7回(講義) タンパク質科学2
- 第8回(講義) 酵素学
- 第9回(講義) 糖質代謝1
- 第10回(講義) 糖質代謝2

第 11 回（講義）糖質代謝 3

第 12 回（講義）その他の代謝系

第 13 回（講義）塩酸基平衡

第 14 回（講義）免疫 1

第 15 回（講義）免疫 2

準備物品

なし

単位認定の方法

1. 30 時間のうち、24 時間以上の出席があること
2. 成績は課題、小テスト、テストの点数で評価する

受講上のアドバイス

- ・授業は教科書とプリントを中心に進める
- ・小テストで到達度を確認する

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	21	微生物と感染症	1	30	1年次通年	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進4 微生物学 (医学書院)
副教材、 参考図書	国立感染症研究所感染症情報

学習のねらい

微生物の性質を学び、微生物に対する感染防御と感染症の特徴を理解する。

学習目標

1. 微生物の種類と各々の生態、感染経路、増殖様式、病原性などについて理解できる。
2. 感染症の予防の基本となる滅菌と消毒の概念について理解できる。
3. 感染症の特徴と感染対策について理解できる。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	微生物と微生物学 微生物の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物学の対象と目的 ・微生物の種類と性質 ・細菌の形態と特徴 	講義
2回	感染症の現状と対策	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の変遷 ・感染症の現状と問題点 ・エマージング感染症 	講義
3回	感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・滅菌と消毒の意義と定義 ・滅菌法と消毒 ・消毒実習 	講義、演習
4回	感染症の検査と診断 感染症の治療	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌学的検査法 ・薬剤耐性 	講義、演習
5回	感染に対する生体防御機構	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫応答の成立 ・自然免疫、液性免疫 	講義

6回	感染に対する生体防御機構	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞性免疫 ・移植免疫 	講義
7回	病原細菌と細菌感染症 1	<ul style="list-style-type: none"> ・グラム陽性球菌 ・グラム陰性球菌 	講義
8回	病原細菌と細菌感染症 2	<ul style="list-style-type: none"> ・グラム陰性好気性桿菌 ・グラム陰性通性桿菌 	講義
9回	病原細菌と細菌感染症 3	<ul style="list-style-type: none"> ・グラム陰性通性桿菌 	講義
10回	病原細菌と細菌感染症 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘリコバクター属 ・マイコバクテリウム属 	講義
11回	病原細菌と細菌感染症 5	<ul style="list-style-type: none"> ・クロストリジウム属 ・マイコプラズマ ・リケッチア、クラミジア 	講義
12回	病原ウイルスとウイルス感染症 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ポックスウイルス科 ・ヘルペスウイルス科 	講義
13回	病原ウイルスとウイルス感染症 2	<ul style="list-style-type: none"> ・オルトミクソウイルス科 ・ピコルナウイルス科 	講義
14回	病原ウイルスとウイルス感染症 3	<ul style="list-style-type: none"> ・フラビウイルス科 ・コロナウイルス科 ・レトロウイルス科 	講義
15回	病原ウイルスとウイルス感染症 4 真菌感染症 原虫感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・肝炎ウイルス ・深在性真菌症 ・マラリア、トキソプラズマ他 	講義

準備物品

時間割提示の際に指示する

単位認定の方法

30 時間中、24 時間の出席があること

終講試験 100 点中 60 点以上で合格とする

受講上のアドバイス

本講義で学んだ知識をもとに、看護を実践する際の具体的な援助の方法や感染予防のためのかかわりについて学びを深めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	22	疾病論基礎	1	30	1年次通年	院内講師	○

テキスト (発行所)	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進1 病理学 (医学書院)
副教材、 参考図書	

学習のねらい

看護が対象にすることの多い症状と病理的变化・病理診断との関連を学び、疾病論を理解するための基礎的能力を身につける。

学習目標

1. 人体に生じる種々の形態的、機能的な異常状態について、その原因、発生のしくみ、身体に与える影響について理解する。
2. 主要な症状(痛み、発熱、腫脹・浮腫、倦怠感、食欲不振、循環障害、呼吸困難)について、身体に起きている病理的变化を分析的に推論し理解する。

各回の主題、履修形態

*以下は予定となっています。順序の変更等があれば、その都度お知らせします。

1回～5回：講義

病理学の考え方

細胞や組織に生じる変化(肥大・萎縮・壊死・腫瘍・異形成、炎症、循環障害など)

6回～13回：講義と演習(PBL)

具体的な症状を通して病理的变化を学ぶ

具体的な症状(痛み、発熱、腫脹・浮腫、倦怠感、食欲不振、循環障害、呼吸困難)

14・15回：講義

症状と病理的变化および成り行きについて

医療における病理診断の実際

準備物品

時間割提示の際に指示する

単位認定の方法

30時間のうち24時間以上の出席があること

終講試験または、レポート試験100点満点中60点以上で合格とする

受講上のアドバイス

演習へは積極的に臨み、疑問をグループで共有し、活発なディスカッションを期待します。

症状を目にした時、身体におこっている事実が何か、必要な情報が何かを考えられ、情報を提供できるような個々の能力を養います。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	23	疾病論 I	1	30	1 年次後期	院内講師	○

テキスト (発行所)	系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 系統看護学講座 成人看護学3 循環器
副教材、 参考図書	

学習のねらい

各疾病の症状・診断・検査・治療・処置および機能障害について理解し、看護学の視点から人体を体系的に観察・判断するための基礎的能力を身につける。

学習目標

1. 呼吸機能が障害された状態の診断・検査・症状、治療、処置等について理解する
2. 循環機能が障害された状態の診断・検査・症状、治療、処置等について理解する

各回の主題、履修形態

講義：呼吸器 13 時間・呼吸器外科 2 時間
循環器 13 時間・心臓血管外科 2 時間

- 1 回 呼吸器感染症（インフルエンザ・肺炎総論）
- 2 回 呼吸器感染症（肺炎各論・結核）
- 3 回 慢性閉塞性肺疾患（COPD）
- 4 回 肺癌
- 5 回 びまん性肺疾患・間質性肺炎・突発性肺繊維症
- 6 回 気管支喘息
- 7 回（45 分） 気管支拡張症・胸膜疾患・過換気症候群・好酸球性肺疾患他
- 8 回 気胸・肺癌の手術・胸腔ドレナージシステム

- 9回 循環器系の解剖生理・循環器系の症状・検査
- 10回 刺激電動系の解剖生理・心電図・不整脈
- 11回 不整脈の病態・治療
- 12回 心不全の診断・病態・治療
- 13回 狭心症の診断・病態・治療
- 14回 急性心筋梗塞の診断・病態・治療 ショックの種類と機序
- 15回 (45分)生活習慣病と冠動脈疾患・高血圧症

16回 心臓血管外科総論

準備物品

なし

単位認定の方法

- 30時間のうち24時間以上の出席があること
- 終講試験で100点中60点以上の得点があること

受講上のアドバイス

自身で理解度を確認しながら、学習をすすめてください。疑問はそのままにせず、質問するなどしてはやめに対処しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	25	疾病論Ⅲ	1	30	1年次後期	院内講師	○

テキスト (発行所)	系統看護学講座 成人看護学 14 耳鼻咽喉 、成人看護学 12 皮膚、 成人看護学 8 腎・泌尿器 、成人看護学 10 運動器 (医学書院)
副教材、 参考図書	

学習のねらい

各疾病の症状・診断・検査・治療・処置および機能障害について理解し、看護学の視点から人体を体系的に観察・判断するための基礎的能力を身につける。

学習目標

1. 皮膚・聴覚・嚥下機能が障害された状態の診断・検査・症状・治療・処置等について理解する。
2. 泌尿器・男性生殖器の疾患の症状・診断・治療・処置等について理解する。
3. 整形外科疾患の症状・診断・治療・処置等について理解する。

各回の主題、履修形態

講義：耳鼻咽喉科嚥下障害 6 時間

皮膚 6 時間

泌尿器科 8 時間

整形外科 10 時間

- 1 回 咽頭疾患（腫瘍を除く）嚥下障害の病態と治療
- 2 回 耳科疾患と病態と治療、顔面神経麻痺、鼻疾患
- 3 回 頭頸部腫瘍の疾患と病態・治療
- 4 回 皮膚の構造と機能、原発疹・続発疹・表在性皮膚疾患
- 5 回 真皮、皮下組織の皮膚疾患・皮膚腫瘍・熱傷・褥瘡
- 6 回 微生物による皮膚疾患・爪白癬の治療

- 7回 腎・泌尿器の解剖生理及び病態生理・症状・検査と治療
- 8回 腫瘍（腎・膀胱など）・感染症・尿路結石・外傷・神経因性膀胱など
- 9回 前立腺・内外性器の腫瘍の特徴、診断、治療
前立腺肥大症の特徴、診断、治療
- 10回 STD・尿路性器奇形・外傷・良性疾患の診断・治療

- 11回 運動器の構造と機能・症状と病態生理能
- 12回 運動器の診断・検査・処置
- 13回 神経損傷・先天性疾患・骨腫瘍
- 14回 脊椎の疾患・下肢および下肢帯の疾患
- 15回 ギプス・シーネ演習

準備物品

なし

単位認定の方法

30時間のうち24時間以上の出席があること
終講試験 100点満点中 60点以上で合格とする

受講上のアドバイス

これらの機能障害がある患者さんのニードについて思いを巡らせて、ひとつひとつの主題を学習してください。疑問はそのままにせず、質問するなどしてはやめに対処しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	27	疾病論Ⅴ	1	20	1年次後期	院内講師	○

テキスト (発行所)	系統看護学講座 成人看護学5 消化器、成人看護学15 歯・口腔 (医学書院)
副教材、 参考図書	

学習のねらい

各疾病の症状・診断・検査・治療・処置および機能障害について理解し、看護学の視点から人体を体系的に観察・判断するための基礎的能力を身につける。

学習目標

1. 消化器系疾患の症状・診断・検査・治療・処置等について理解する。
2. 歯科・口腔領域疾患の症状・診断・検査・治療・処置等について理解する。

各回の主題、履修形態

講義：消化器内科 12 時間

消化器外科 6 時間

口腔・歯科 2 時間

- 1 回 口腔解剖・歯科疾患・治療概論・口腔ケア
- 2 回 肝臓の病態生理および病態生理・疾患各論 1
- 3 回 肝臓疾患各論 2
- 4 回 消化管の解剖生理および病態生理・疾患各論 1
- 5 回 消化管の疾患各論 2
- 6 回 胆道系の解剖生理および病態生理・胆道系疾患
- 7 回 膵臓の解剖生理および病態生理・膵臓疾患

- 8回 手術療法、食道、胃疾患、
- 9回 大腸・虫垂炎・イレウス・ヘルニアの手術
- 10回 肝臓・胆道系・膵臓疾患の手術

準備物品

必要時、提示する

単位認定の方法

20時間のうち16時間以上の出席があること
終講試験100点満点中60点以上で合格とする

受講上のアドバイス

これらの機能障害がある患者さんのニードについて思いを巡らせて、ひとつひとつの主題を学習してください。疑問はそのままにせず、質問するなどしてはやめに対処しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	30	災害医療論 I	1	15	1 年次前期	赤十字救急法講師 国際救援・開発協力要員 日本 DMAT 隊員 京都 DMAT 隊員 こころのケア指導者	○

テキスト (発行所)	系統看護学講座 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学（医学書院） こころのケア小冊子（日本赤十字社）
副教材、 参考図書	

●学習のねらい

災害の種類と健康被害、災害医療の特徴、災害時に適用される法律や制度などの社会資源、支援体制について、災害時における看護実践のための基礎的な知識を学ぶ。また、赤十字の災害医療活動の支援の実際を学び、災害医療の担い手としての自覚をもつ。

●学習目標

1. 災害に関する様々な定義や種類、健康被害の特性や成り立ちを学び、必要な予防策や対策を理解する。
2. 災害救護の現場で繰り広げられる、チーム体制や支援の実際や考え方を理解する。
3. 被災者のおかれる状況や特別な配慮を要する人々の存在を知り、支援者の心構えや災害とこころのケアについて理解する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	日本赤十字社の災害救護	・日本赤十字社と支部の役割と活動 ・災害医療対応の整備 ・災害サイクルから考える災害医療	赤十字救急法講師 講義
2回	日本赤十字社の国内外の活動	国内外の活動の実際	国際救援・開発協力要員 講義
3回	災害医療の基礎知識	・災害の定義 ・災害の種類と健康被害 ・災害と感染制御 ・災害医療の特徴 CSCATTT、トリアージ ・災害医療の実際	日本 DMAT 隊員 講義
4回			

5回	災害救護の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・災害と情報 ・災害対応に関わる職種間・組織間連携 ・救護班編成と役割、支援体制 ・病院の受け入れ態勢 	京都 DMAT 隊員 講義
6回	災害とこころのケア	<ul style="list-style-type: none"> ・災害がもたらす精神的影響 ・こころのケアとは ・こころのケアの活動の実際 	こころのケア指導者 講義
7回			
8回 (45分)			

●単位認定の方法

1. 出席について：15時間のうち12時間以上の出席があること
2. レポート課題、筆記試験（3～4回：50点、6～8回：50点）

●受講上のアドバイス

日本赤十字社の重要な役割である災害医療について学びます。「人権と赤十字」や「赤十字活動論」とも関連させながら学んでいきましょう。

災害医療の基礎知識や活動の状況などについて、災害時活動や赤十字救護班への研修などを担当している講師を迎えての授業となります。活動の実践者から様々なことを学び吸収してください。赤十字の活動について理解し、災害医療論Ⅱ（赤十字救急法基礎講習・救急員講習）の受講姿勢にもつながっていくことを期待します。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	31	災害医療論Ⅱ	1	30	1年次後期	赤十字救急法 指導員	○

テキスト (発行所)	赤十字救急法基礎講習教本と教材 赤十字救急法救急員講習教本と教材
副教材、 参考図書	災害時のこころのケア 小冊子

●学習のねらい

災害や日常生活の中で求められる一次救命処置や応急手当の技法を身につけ、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守るための知識・技術・態度について学ぶ。

●学習目標

1. 赤十字看護師として、医療施設内外での対応や手当の技法、必要な知識・技術・態度を習得する。
2. 赤十字救急法救急員の資格を取得し、赤十字へのエンゲージメントを高める。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	赤十字救急法を学ぶとは	1. オリエンテーション 履修上の注意 2. 赤十字救急法を学ぶとは 1)赤十字救急法基礎講習について 2)赤十字救急法救急員養成講習とは 3. 三角巾の基本的な取り扱い方	赤十字救急法 指導員 講義・実技
2回	基礎行動	1. 基礎行動 2. 無線機の取り扱い	京都府支部 講義・実技
3回 ～ 15回	赤十字救急法基礎講習 赤十字救急法救急員養成講習	・一次救命処置 (心肺蘇生法、AED を用いた除細動) ・急病 ・ケガ ・止血 ・きずの手当て ・包帯	赤十字救急法 指導員 講義・実技・検定

		<ul style="list-style-type: none"> ・骨折、脱臼、捻挫など ・搬送 ・トリアージ ・総合演習 ・実技検定 ・学科検定 	
--	--	---	--

●単位認定の方法

- 1) 赤十字救急法等講習規定に基づいた講習時間や検定の要件を満たし、赤十字救急員資格を取得すること。
 - 2) 30時間のうち、80%以上の出席があること。
- 1)、2)の要件を満たし、本科目の認定とする。

●受講上のアドバイス

本講習は、病気やケガ・災害から自分自身を守り、ケガ人や急病人を正しく救助するための知識・技術・態度を学びます。本講習の全課程を受講し検定に合格すると「赤十字ベーシックライフサポーター」と「赤十字救急法救急員（赤十字ファーストエイドプロバイダー）」の認定証が受領できます。講習後は、不慮の事故に遭った人や急病にかかった人に接したとき、この講習で習得された知識と技術に勇気が加わり、救急隊・医療機関へと引き継げる「救命の連鎖」が繋がることを期待しています。

資格取得のための検定を受けるのに不利になるため、欠席しないよう努力すること。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	32	医療概論	1	20	1年次前期	院内講師 専任教師	○

テキスト (発行所)	医療概論・総合医療論（医学書院）
副教材、 参考図書	

学習のねらい

あらゆる健康段階に応じた医療の特徴および現代医療のシステムを学び、医療のあり方や諸問題について考える。

学習目標

1. 医療の歩み、医療の発展や現代医療の諸問題について学び、医の倫理について理解する。
2. 健康段階に応じた医療の現状を理解する。

各回の主題

1. 医療と看護の原点・医療の歩み
2. 生活と健康・日本の医療制度・少子高齢化社会における医療の現状と課題
3. 現代医療の諸問題（医療安全・倫理的問題）
4. チーム医療を考えるフィールドワーク（病院の各部門を訪問）
（医療技術部—栄養課・事務部—総務課・医事課・調度課・施設課・健診課・地域医療連携、入退院支援課・ホスピタルメンテナンス・健診課・薬剤部・検査部等）各部門3名程度
5. 6. 健康段階に応じた医療1（予防医学の理念と体制・予防医学の実際）
- 7・8. 健康段階に応じた医療2（救急医療の理念と体制・救急医療の実際）
- 9・10. 健康段階に応じた医療3（緩和医療の理念と体制・緩和医療の実際）

単位認定の方法

1. 20時間のうち、16時間以上の出席があること
2. 終講テスト、レポートで合計60点以上で合格
レポート 40点・終講試験 60点

受講上のアドバイス

これから本格的に看護を学ぶにあたり、医療とは何か、現在医療の現状と課題の概略をつかみ、また実際医療が行われている病院を知ること、看護師としてチームの一員としての役割を考えるきっかけにしてもらいたい。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門基礎	35	社会保障と社会福祉	1	30	1年次後期	非常勤講師	○

テキスト (発行所)	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 (医学書院)
副教材、 参考図書	医療総合福祉ハンドブック (医学書院)

学習のねらい

社会福祉の基本概念と社会保障制度について理解し、看護の対象者に応じた社会資源を活用できる基本的能力を身につける。

学習目標

生活者のくらしの実態と、生存権に根ざした社会保障・社会福祉制度について理解する。

私たちのくらしと健康を守る社会保障・社会福祉は、少子高齢化や「財政難」のもと、大きな制度変化が続いている。また、近年顕著な「生活保護バッシング」にみられるように、当事者のくらしの実態からかけ離れた「あるべき論」も横行している。

この授業では、社会保障・社会福祉制度の基本的な構造や内容についての知識を習得する。あわせて、くらしの実態に根差して今後の社会保障・社会福祉のあり方を考えられる視点を身につけることを目標とする。

各回の主題、履修形態

- 第1回 (講義) くらしの構造と生活問題
- 第2回 (講義) 社会保障制度の体系
- 第3回 (講義) 社会保障制度の歴史1
- 第4回 (講義) 社会保障制度の歴史2
- 第5回 (講義) 雇用保険と労災保険制度
- 第6回 (講義) 医療保障制度1
- 第7回 (講義) 医療保障制度2

- 第8回（講義）所得補償制度1
- 第9回（講義）社会福祉行政
- 第10回（講義）生活保護制度と生活困窮者への支援
- 第11回（講義）高齢者福祉
- 第12回（講義）児童・ひとり親家庭福祉
- 第13回（講義）障害者福祉
- 第14回（見学）社会福祉施設見学
- 第15回（講義）社会福祉・社会保障制度の課題

準備物品

単位認定の方法

1. 30時間のうち、24時間以上の出席があること
2. 試験を実施する。授業中に小レポート等課す場合がある。

受講上のアドバイス

テキストや配布資料をよく復習するとともに、新聞記事やテレビ、ウェブなどで社会保障・社会福祉がどのように取り上げられているか、注目してみてください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門	37	看護学概論	1	30	1年次前期	専任教師	○

テキスト (発行所)	看護学概論 (医学書院)
副教材、 参考図書	1. 川島みどり：キラリ看護，医学書院，2008. 2. ヴァージニア・ハンダーソン：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2016.

学習のねらい

看護の主要概念である、人間・環境・健康・看護について学び、看護の本質、看護とは何か、またそれがどのような方向に発展しつつあるのかを共に考える。看護実践の基盤となる看護観を培う。

学習目標

1. 看護の概念について理解する。
2. 看護の対象である人間を統合体として理解する。
3. 健康の概念を理解し、健康レベルに応じた看護の役割・機能について理解する。
4. 保健医療福祉分野の連携の中で、看護の独自性や役割について理解する。
5. 看護学における倫理の考え方や倫理的問題の解決に向けた考え方を理解する。
6. 看護の変遷を振り返り、看護のおかれている状況や今後の課題と展望について理解する。
7. 看護とは何かを探求し続けるための姿勢を身につける。

各回の主題、履修形態、準備物品

回数	主題	学習内容	履修形態
1	どのような看護を目指すのか	看護師のイメージ 目指す看護師像	DVD鑑賞 「プロフェッショナル」
2	看護師は何をしているのか	看護の定義 看護職の資格と責任と業務	講義
3・4	看護の対象の「人間」とは何か	人間の諸側面・基本的欲求 人間の成長と発達	講義 ワーク
5・6	看護師が向き合う「健康」とは何か	健康観・健康の定義 健康レベル	講義 ワーク

7・8	看護は何を目的とし、どのような役割があるのか	看護の目的 役割機能・看護実践の場	DVD鑑賞 「あなたの声が聞きたい」
9 10・11	看護師は何を守るのか・何に悩むのか	看護倫理・看護職の倫理綱領・倫理的問題	講義 事例検討
12	看護理論とは何か	看護理論・看護理論の分類 主な理論家とその理論	講義 ワーク
13	看護師は専門職と言えるのか	看護の独自性・専門性	講義・ワーク
14	看護はどのような変遷をたどってきたのだろう	看護の変遷	講義
15	これからの看護に求められるもの	看護を取り巻く現状・今後の課題と展望	講義

単位認定の方法

1. 30時間のうち、24時間以上の出席があること
2. レポート・ポートフォリオ・終講テストの合計 60点以上で合格
 - 1) 終講テスト・・・70点
 - 2) 「キラリ看護」の感想・・・10点
 - 3) DVD「あなたの声が聞きたい」についてのレポート・・・5点
 - 4) 夏期休暇中課題レポート・・・10点
 - 5) ポートフォリオ・・・5点
 - ①自己学習の成果・・・3点
 - ②本科目についての学びと成長について 400字程度にまとめる・・・2点

受講上のアドバイス

本講義では、看護とは何か、看護師はどのような役割を担い、どのように実践していくのか、など大まかな看護の輪郭をつかんでほしいと考えています。これらは今後看護学の基盤となるもので、どの領域の看護学にも共通するものです。

本講義では、何かを覚えるというよりも、“考える”ことを大切にしたいと思っています。まずは自分で考え、人に伝え、他者の考えを聴く機会を多く持ち、看護についての考えを広げ深めていってほしいと願っています。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	38	看護共通基本技術	1	30	1年次前期	専任教師	○

テキスト (発行所)	系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 II 看護技術プラクティス (学研)
副教材、 参考図書	看護覚え書き～本当の看護とそうでない看護～ (日本看護協会出版会)

●学習のねらい

すべての看護に共通するコミュニケーション、感染予防対策、療養環境調整の科学的根拠と正確な方法について学ぶ。今後の学習の基盤となる基本的な知識と技術を習得する。

●学習目標

1. 感染予防の基礎知識を理解し、感染予防策の正しい方法を習得する
2. 療養環境を整えるための基礎的知識と技術を習得する
3. 看護の基盤となる人間関係形成に必要なコミュニケーションの基本的技法を習得する

●学習スケジュール

回数	主題と学習内容	履修形態、他
単元：感染を予防する技術 (8時間/30時間)		
1回	感染・感染予防の基礎知識 1. 感染とは 2. 感染予防の意義 3. 感染の成立および感染予防の原則と方法 4. 感染経路別予防策 5. 感染予防における看護師の責務と役割	講義
2回	感染予防の方法① 1. 洗浄・滅菌・消毒 2. 手指衛生	講義

	<ul style="list-style-type: none"> 3. 個人防護具の使用 4. 隔離法 	
3回	<p>感染予防の方法②</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 無菌操作 2. 感染性廃棄物の取り扱い 3. 個体の抵抗力の増強 	講義
4回	<p>感染予防方法の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 手洗い（スクラブ法、ラビング法） 2. 個人防護用具の使用法 3. 滅菌物の取り扱い 	演習（実習室）
単元：療養環境を整える技術（12時間／30時間）		
5回	<p>住み慣れた場と療養する場の違い</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 入院における生活環境の変化 2. 病院の構造、病室の種類と環境条件 3. 生活空間とプライバシー 	講義
6回	<p>療養生活における環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 療養環境を構成する要素 2. ベッドの構造、寝具の種類と特徴 3. 環境を整える際の留意点 	講義
7回	<p>環境を整える方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 環境調整の視点（プライバシー、衛生面、安全面） 2. 各種寝具のたたみ方 3. 環境調整を行うための準備・身支度、必要物品 	講義 演習
8回	ベッドメイキングの実際	デモスト、演習
9回	臥床患者のシーツ交換の実際	デモスト、演習
10回	療養環境のアセスメントと援助方法	講義 グループワーク
単元：看護コミュニケーション（10時間／30時間）		
11回	<p>コミュニケーションとは</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの概念 2. 看護学でコミュニケーションを学ぶ意義 	講義 個人ワーク グループワーク
12回	<p>コミュニケーションの基本的要素と分類</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの構造・基本的要素 2. コミュニケーションの分類 3. コミュニケーションのプロセス 	講義 ロールプレイ

13回	看護のためのコミュニケーションの技法1 コミュニケーションの技法の種類と内容	講義
14回	看護のためのコミュニケーションの技法2 技法を意識したコミュニケーション体験	演習
15回	看護のためのコミュニケーション体験 患者-看護師関係を想定したコミュニケーション (空間的要素、関係性を意識したコミュニケーション体験)	ロールプレイ 事後レポートあり

●単位認定の方法

1. 出席時間について

30 時間中 24 時間以上の出席があること

2. 評価の割合：以下の評価方法で 100 点満点中、60 点以上の得点があること

1) 終講試験…50 点

2) 看護コミュニケーションのレポート…10 点

3) 実技試験…30 点

4) ポートフォリオ…10 点

①日々の学習内容を時系列にファイルする (2 点)

②自己学習の成果がわかる (4 点)

③本科目の学びと自己の成長について 400 字程度にまとめる (4 点)

上記 1) ~ 4) を合わせて合計 100 点のうち 60 点以上を合格とする

3. 上記の条件を満たしたものは看護共通基本技術の単位を 1 単位取得できる。

●受講上のアドバイス

この科目では、あらゆる看護場面で必要となる知識と技術を学びます。みなさんも「感染を予防する」、「生活環境を整える」、「コミュニケーションをとる」ということをしてきたと思いますが、そこに看護のエッセンスを加えて、根拠に基づいた技術を習得していきます。看護学校に入学して初めて習得する看護技術です。看護技術を習得することの喜びをみんなで実感しましょう。

分野	科目 番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門	39	フィジカルアセスメント	1	30	1年次 後期	専任教師	○

テキスト (発行所)	看護がみえる Vol.4 フィジカルアセスメント (メディックメディア)
副教材	フィジカルアセスメントワークブック (医学書院)
参考図書	系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I

●学習のねらい

対象者の健康上の問題や強みを把握するために、系統的かつ客観的に情報を収集し、身体の正常と逸脱の範囲を判別する根拠と方法を学ぶ。フィジカルアセスメントに関する基本的な知識と技術を習得する。

●学習目標

1. 人体の構造・機能に関する知識をもとにフィジカルアセスメントの根拠・意義を理解する
2. フィジカルアセスメントの基本技術を習得する
3. フィジカルアセスメントの結果から身体状態をアセスメントする

●学習スケジュール

回数	主題と学習内容	履修形態、他
1回	<u>バイタルサイン～体温～</u> 1. バイタルサイン測定の意義 2. 体温 1) 体温測定の意義 2) 体温調節の機序 3) 体温の影響因子 4) 体温測定の方法	講義
2回 3回	<u>バイタルサイン～脈拍・血圧～</u> 1. 脈拍 1) 脈拍測定の意義 2) 脈拍調節の機序と影響因子 3) 脈拍測定の方法 2. 血圧 1) 血圧測定の意義 2) 血圧調節の機序と影響因子	講義

	3) 血圧測定の方法	
4回	<u>バイタルサイン～脈拍・血圧測定演習～</u> 1. 脈拍測定の実施 2. 血圧測定の実施 1) 触診法 2) 聴診法	演習（実習室）
5回	<u>バイタルサイン～呼吸～</u> 1. 呼吸測定の意義 2. 呼吸調節の機序と影響因子 3. 呼吸の性状と種類 4. 呼吸測定の方法	講義
6回	<u>フィジカルアセスメントとは</u> 1. 「生きている」ための機能、「生きていく」ための機能 2. フィジカルアセスメントとは 3. フィジカルアセスメントの原則 4. フィジカルアセスメントの基本技術	講義
7回	<u>「生きている」機能のフィジカルアセスメント～呼吸器系～</u> 1. 呼吸器系の解剖と生理 2. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの基本技術	小テスト① 「ワークブック」p2～23 講義
8回	<u>「生きている」機能のフィジカルアセスメント～呼吸器系演習～</u> 呼吸器系フィジカルアセスメントの基本技術の実施	演習（実習室）
9回	<u>「生きている」機能のフィジカルアセスメント～循環器系～</u> 1. 循環器系の解剖と生理 2. 循環器系のフィジカルアセスメントの基本技術	小テスト② 「ワークブック」p24～45 講義
10回	<u>「生きている」機能のフィジカルアセスメント～循環器系演習～</u> 循環器系フィジカルアセスメントの基本技術の実施	演習（実習室）
11回	<u>バイタルサイン測定を中心とした総合演習</u> 事例を用いたバイタルサイン測定の実施、アセスメント	演習（実習室）
12回	<u>「生きている」機能のフィジカルアセスメント～消化器系～</u> 1. 消化器系の解剖と生理 2. 消化器系のフィジカルアセスメントの基本技術	小テスト③ 「ワークブック」p46～65 講義
13回	<u>「生きている」機能のフィジカルアセスメント～消化器系演習～</u> 消化器系フィジカルアセスメントの基本技術の実施	演習（実習室）
14回	<u>「生きていく」機能のフィジカルアセスメント</u> ～神経系・運動器系～	小テスト④ 「ワークブック」p66～77

	1. 中枢神経系の解剖と生理 2. 中枢神経系のフィジカルアセスメントの基本技術 1) 意識状態 2) 神経学的所見 3. 四肢のフィジカルアセスメント	講義
15回	「生きていく」機能のフィジカルアセスメント ～神経系・運動器系演習～ 神経系・運動器系フィジカルアセスメントの基本技術の実施	演習（実習室）

●単位認定の方法

1. 30時間のうち、24時間以上の出席があること
2. 以下の内容で評価をする。
 - 1) 小テストを4回行う。計4回の小テストの合計を20%で換算する。(計4回で20点満点)
 - 2) 終講試験・・・40点満点
 - 3) 実技試験・・・30点満点
 - 4) 呼吸音シミュレーターを用いた課題・・・5点
 - 5) ポートフォリオ・・・5点
 - ①日々の学習内容を時系列にファイルする(1点)
 - ②自己学習の成果がわかる(2点)
 - ③本科目の学びと成長について400字程度にまとめる(2点)

*ポートフォリオは、終講試験の翌日、指定時間までに指定場所へ提出する
- 1)～5)の得点の合計が60点以上であれば合格となる。
3. 1と2の条件を満たして1単位認定とする。

●受講上のアドバイス

人間には「生きている」ための機能と「生きていく」ための機能が備わっています。それらの機能に何か異常がある場合、身体はあるサインを発してくれます。対象者が教えてくれる身体のサインに気づき、看護につなげるために、解剖生理学の知識をふまえてバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントを学んでいきます。

この技術は、講義で学んだことをすぐに実践できるよう、講義→演習を繰り返していく構成となっています。視て・触れて・たたいて・聴いて、という技術を通して、身体が教えてくれるサインに気づける力をつけていきましょう。動画コンテンツ等を用いて、予習・復習にも取り組み、根拠に基づくバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントの基本技術を習得しましょう。

看護学校に入学して初めて聴診器を使用する技術になります。技術が習得できた時の喜びはとても大きいものです。楽しんで受講してください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	40	日常生活援助技術Ⅰ	1	30	1年次前期	専任教師	○

テキスト (発行所)	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)
副教材、 参考図書	看護技術 プラクティス 第4版 監修 竹尾恵子 (学研)

●学習のねらい

人間の生命活動に不可欠な食事と栄養摂取、排泄の意義とそのしくみを学ぶ。対象者の健康維持や回復、ニーズの充足を目指した援助を行うための基礎的な知識と技術を習得する。

●学習目標

1. 人間にとっての食事・栄養摂取、排泄の意義を理解する。
2. 食事・栄養摂取、排泄を援助するために必要な知識とアセスメントの視点について理解する。
3. 対象者の安全・安楽に留意し、根拠に基づいた食事・栄養摂取、排泄の基礎的な援助技術を習得する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
単元：食生活を支える援助技術(14時間/30時間)			
1回	「おいしく食べる」とは何だろう ・食べる仕組みと消化吸収のしくみ ・食べるための機能のアセスメント	1. 人にとっての食事のニーズ 2. 嚥下・消化吸収のしくみ 3. 食行動のアセスメント	講義 グループワーク
2回	経口摂取できる人への食事の援助 ・嚥下と体位 ・車椅子での食事摂取	1. 食事の環境を整える援助 2. 食事動作・姿勢	演習 グループワーク (実習室)
3回	食事と栄養を援助するために必要な知識	1. ポートフォリオ学習会	グループワーク
4回	機能障害を持つ人への食事援助	1. 機能障害に応じた食事援助を考える 2. 病院の治療食	グループワーク 演習 (実習室)
5回	経口摂取が困難な人への栄養摂取の方法 経管栄養法による栄養摂取の援助	1. 経腸栄養の基礎的知識 2. 経鼻胃チューブによる栄養摂取の援助の実際	グループワーク (実習室)
6回	栄養がよい、悪いとは ・栄養状態のアセスメント	1. 栄養状態をアセスメントする指標 2. 人に必要なエネルギー、食事内容 3. 水分出納	講義 グループワーク
7回	食欲不振のある対象者への援助	1. 事例に基づいた援助方法の検討 2. 食生活を支える看護師の役割	講義 グループワーク

単元：快適な排泄を援助する技術(16時間/30時間)			
8・9回	床上での排泄援助 排泄のニーズと対象者の心理 排泄のアセスメント	1. 排泄のニーズと援助の基本 2. 排泄のしくみと排泄行動 3. 排泄のアセスメント 4. 便器・尿器の取り扱い	講義 演習 (実習室)
10回	排泄ケアのための基礎知識 排泄機能障害 ポートフォリオ学習会	1. ポートフォリオ学習会	グループワーク (実習室)
11・12回	自然な排泄を促す援助方法	1. 車いすを使用した排泄援助 2. ベッドサイドでの排泄援助(ポータブルトイレ) 3. おむつ交換の援助	演習 (実習室・在宅実習室)
13回	自然な排尿が困難な人への援助	1. 器具の種類と特徴 2. 器具を用いた排尿の援助技術 1) 導尿 2) 膀胱留置カテーテル	講義 演習 (実習室)
14回	自然な排便が困難な人への援助	1. 器具の種類と特徴 2. 器具を用いた排便の援助技術 1) 浣腸	講義 演習 (実習室)
15回	排泄障害のある患者の看護	1. 事例検討 2. 排泄行動を援助する看護師の役割	グループワーク

●単位認定の方法

1. 出席時間について

30時間のうち、24時間以上の出席があること。

2. 評価の割合：以下の評価方法で100点満点中、60点以上の得点があること

1) 終講試験、課題…80点

①終講試験：70点

②食事摂取の体験レポート：10点 *第4回の講義までに取り組むこと

- ・体験学習：機能障害を持つ人の食事摂取の体験を行い、気づきや学びをワークシートにまとめる
- ・フィールドワーク：市販されている食事・栄養を補助する様々な食品、器具を調べる

2) ポートフォリオ…20点(10点×2)

*ポートフォリオは各単元に1冊作成する。終講試験翌日の12:30提出締め切りとする。

①日々の学習内容が時系列に整理され、見返しやすいようにファイルされている。(1点)

②自己学習の証が残されている。(2点)

③本科目の学びと自己の成長について、400~600字程度にまとめられている。(2点)

④興味のある学習テーマについてまとめ、ポートフォリオ学習会で発表する。(5点)

*調べ学習に使用した資料をポートフォリオに綴っておくこと。

*1、2の条件が両方満たされ、日常生活援助技術Ⅰ 1単位の認定とする。

●受講上のアドバイス

人は生命を維持するために必要な物質や栄養素を取り入れ、不必要な物質・有害物質を体外に排出しています。本科目では、人間の最も基本的な生理的欲求に関わる、食事・栄養摂取、排泄に関する援助技術を学びます。看護技術は、スキルの獲得のみならず、技術の根拠や必要な知識を活用しながら、対象者に応じた援助を創造することが重要です。様々な教材を用いて、講義や演習前後に知識を確認し、学生同士で意見交換を行いながら様々な価値観に触れ、積極的に生活援助技術を学んでいきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	41	日常生活援助技術Ⅱ	1	30	1年次後期	専任教師	○

テキスト (発行所)	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)
副教材、 参考図書	看護技術プラクティス 第3版 監修 竹尾 恵子 (学研)

●学習のねらい

人間にとっての衣生活や、身体を清潔に保ち、身だしなみを整える意義を理解する。対象者の自立度や身体状況をアセスメントし、その人らしく日常生活を送るために必要な整容や清潔援助の基礎的な知識と技術を学ぶ。

●学習目標

1. 人が身だしなみを整えることの意義を理解し、対象者がその人らしく生活するための援助の基本を理解する。
2. 皮膚や粘膜の構造やしきみ、衣服の役割など身体の清潔保持に必要な知識とアセスメントの視点について理解する。
3. 対象者の安全・安楽に留意し、根拠に基づいた身だしなみを整えるための基礎的な援助技術を習得する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	なぜ人は身だしなみを整えるのだろうか	1. 清潔・整容の意義を援助の基本 2. 清潔の援助を通して看護すること 3. 清潔・整容の援助のアセスメント	講義
2回	身だしなみが整うとは	1. 身だしなみが整っている人、整っていない人 2. 清潔・整容の援助のアセスメント 3. 衣服の機能と役割	講義
3回	衣生活と寝衣交換	1. 和式寝衣／様式寝衣の寝衣交換 2. 和式寝衣のたたみ方 3. 対象者に応じた寝衣・履物の選定	講義 演習
4回	身体各部の清潔：口腔ケア	1. 口腔の構造と機能 2. 口腔ケアの目的、効果 3. 口腔ケアの援助の方法	講義 演習(実習室)
5回	部分浴と全身浴	1. 全身浴・部分浴の効果 2. 入浴による全身への影響 3. 洗浄剤の効果、湯を使用する効果	講義
6回	身体各部の清潔：手浴、爪切り	1. 手浴の援助の方法 2. 爪切りの援助の方法	講義 演習(実習室)
7回	身体各部の清潔：足浴	1. 足浴の援助の方法	講義 演習(実習室)

8・9 回	身体各部の清潔：洗髪	1. 頭皮の機能 2. 洗髪の援助方法 3. 患者の状態に応じた洗髪の援助技術 (洗髪台、洗髪車、ケリーパッド)	講義 演習(実習室)
10回	身体各部の清潔：陰部洗浄 身体各部の清潔：顔面の清拭	1. 顔面の機能の回復にむけた清拭の方法 2. 陰部の構造と機能 3. 陰部洗浄の援助の方法	講義 演習(実習室)
11回	全身清拭の基礎知識	1. 全身清拭の方法 1) ウォッシュクロスの使い方 2) 事例に応じた援助の方法	講義 演習(実習室)
12・13 回	身だしなみを整える援助技術⑩ 全身の清拭	1. 全身清拭の援助の方法	演習
14・15 回	対象者の生活に合わせた援助を考える	1. 事例を通して身だしなみを整え、清潔を保つ援助計画の立案 2. 計画に基づいた援助の実施 3. 身だしなみを整えることの意味、看護の役割	講義 グループワーク

●単位認定の方法

1. 出席について：30時間のうち24時間以上の出席があること
2. 評価の割合：以下の評価方法で100点満点中、60点以上の得点があること
 - 1) ポートフォリオ：5点
 - ①日々の学習内容が時系列に整理され、見返しやすいようにファイルされている。(1点)
 - ②自己学習の証が残されている。(2点)
 - ③本単元の学びと自己の成長について、400～600字程度にまとめられている。(2点)

*ポートフォリオは終講試験翌日の12：30提出締め切りとする。
 - 2) 終講試験：65点
 - 3) 実技試験：30点

*1、2の条件が両方満たされ、日常生活援助技術Ⅱ 1単位の認定とする。

●受講上のアドバイス

人は身だしなみを整えることで、心身を爽快にさせ、社会生活を送るうえでその人らしさを発揮させることができると考えます。日常生活の中で、私たちは当然のように洗顔をして朝を迎え、着替えて外出をし、入浴をして就寝をするという生活リズムが身につけていますが、何らかの原因で心身の健康が障害されると、思うように清潔行為が行えない状況が生じます。臨床には、様々な理由で、身だしなみや清潔行動に影響を受けている人が多く、その人のニーズに合わせて、安全に援助を工夫する力が求められます。

本科目では、対象者にとって安全で安楽な清潔援助技術について、基本的な内容を学びます。科目の特性上、患者の立場で心地の良さを実感することも大切です。また、安楽な技術につなげるために、互いに感想を述べ合いながら進めることで、よりよいケアつながります。演習で学びを深めるために、演習の前には、手順を予習して臨み、実践力を高めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	42	ナーシングバイオメカニクス(Nursing Biomechanics)技術論	1	30	1年次後期	専任教師	○

テキスト (発行所)	配布資料
副教材、 参考図書	デンタルダイヤモンド社、黒岩恭子著、黒岩恭子の口腔リハビリ&口腔ケア／学研、平田雅子著、完全版ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学

学習のねらい

Nursing Biomechanics(NBM)の概念を理解し、対象者にとっての安全・安楽・自立を目指した、Nursing Biomechanicsに基づく生活支援技術を習得する

学習目標

1. Nursing Biomechanics の概念を理解し、生活行動確立に向けたアセスメントの視点を理解する。
2. Nursing Biomechanics を構成する基本の型を習得し、生活動作の自然な動きに添った生活支援技術の適用法を学ぶ。
3. Nursing Biomechanics における基礎的な身体調整技術および身体解放技術を習得する。

各回の主題、履修形態

第1回目(講義)

1. Nursing Biomechanics(NBM)とは、NBMの基本的視点(各生活行動確立に向けたアセスメントの方法)

第2・3回目(演習)

2. NBMに基づく生活支援技術
 - 1) 技術を構成する型(パターン)

第4～6回目(演習)

- 2) 動くための身体を調整する技術
 - (1) 用手微振動
 - (2) リラクゼーションエクササイズ
 - (3) ナーシングムーブメント

第7回～9回目（演習）

3) 活動と休息を支援する技術

- (1) 活動：移乗、移動(側臥位・水平移動・引き上げ・腹臥位・シートの活用法、端座位、姿勢調整、車椅子、ストレッチャー、歩行(片麻痺、杖)、休息と生活リズム)
- (2) 睡眠：睡眠のためのアセスメントと医術、体位のポジショニング

第10～12回目（演習）

4) 排泄行動を支援する技術：腰臀部挙上技術、腸蠕動促進のための技術、更衣

第13～15回目（演習）

5) 食べることを目指した口腔ケアと口腔リハビリ

準備物品

毎回ジャージで演習参加してください

持参物品は、その都度、連絡します

教材：モアブラシ（まとめて購入します）

単位認定の方法

30時間のうち24時間以上の出席があること

終講試験 100点満点のうち60点以上で合格（技術テスト 50%、筆記試験 50%）

受講上のアドバイス

本技術を習得することにより、自らの技術で看護の対象者によりよい変化をおこすことができるようになってほしいと考えています。この科目は、老年看護学の「癒しのケア技術論」での臨床実践力を学ぶためのファーストステップになります。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	45	看護の思考 I	1	30	1年次 前後期	専任教師	○

テキスト (発行所)	系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 系統看護学講座 臨床看護総論 (医学書院)
副教材 参考図書	看護がみえる Vol.4 看護過程の展開 (メディックメディア): 2年次購入予定

●学習のねらい

看護師が、対象者を目の前にしたとき、何を考え、どう行動するのかという看護の思考について学ぶ。
事例を通して、対象者の身体に起きている変化や諸側面への影響について分析的に推論し、看護につなぐ過程を学び、「看護師のように考える」思考の基盤を養う。

●学習目標

1. 看護の基盤となる思考と看護での活用の必要性を理解する
2. 事例を用いて、「看護師のように考える」ための分析・解釈の方法を理解する
3. 既習の知識や必要な知識の活用方法を理解する
4. 他者との考え・意見の違いにふれあい、自己の推論力や思考の幅を広げる

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	看護の基盤となる思考	1. 看護の思考の変遷 2. クリティカルシンキング 3. リフレクション 4. 問題解決過程	講義
2回	臨床推論と臨床判断	1. 臨床推論と臨床判断の関係性 1) 診断的判断 2) 治療的判断 3) 倫理的判断 2. 臨床判断の思考過程 1) 「看護師のように考える」とは 2) 臨床判断モデルの構成要素 3. 看護の思考を記録する方法	講義

3回	「発熱」のある人への看護	1. 「発熱」が起こる原因、状況 2. 「発熱」による日常生活への影響 3. 看護の視点、判断の根拠	講義 個人ワーク グループワーク 事後レポートあり
4回			
5回	「痛み」のある人への看護	1. 「痛み」が起こる原因、状況 2. 「痛み」による日常生活への影響 3. 看護の視点、判断の根拠	講義 個人ワーク グループワーク 事後レポートあり
6回			
7回	「食欲不振」のある人への看護	1. 「食欲不振」が起こる原因、状況 2. 「食欲不振」による 日常生活への影響 3. 看護の視点、判断の根拠	講義 個人ワーク グループワーク 事後レポートあり
8回			
9回	「倦怠感」のある人への看護	1. 「倦怠感」が起こる原因、状況 2. 「倦怠感」による 日常生活への影響 3. 看護の視点、判断の根拠	講義 個人ワーク グループワーク 事後レポートあり
10回			
11回	「呼吸困難」のある人への看護	1. 「呼吸困難」が起こる原因、状況 2. 「呼吸困難」による 日常生活への影響 3. 看護の視点、判断の根拠	講義 個人ワーク グループワーク 事後レポートあり
12回			
13回	「腫脹・浮腫」のある人への看護	1. 「腫脹・浮腫」が起こる原因、状況 2. 「腫脹・浮腫」による 日常生活への影響 3. 看護の視点、判断の根拠	講義 個人ワーク グループワーク 事後レポートあり
14回			
15回	看護過程と臨床判断モデル	1. 看護過程とは 2. 臨床判断モデルとは 3. 臨床判断とのつながり	講義

●単位認定の方法

1. 30時間のうち24時間以上の出席があること
2. 評価の配点は次のとおりとする
 - 1) 第3回～第14回で取り組む課題（事後レポート）6つ・・・各5点×6（計30点）
 - 2) ポートフォリオ・・・10点
 - ①日々の学習内容を時系列にファイルする（2点）
 - ②自己学習の成果がわかる（4点）
 - ③本科目の学びと自己の成長について400字程度にまとめる（4点）

3) 終講試験・・・50点

4) 終講レポート（事例を用いた課題）・・・10点

●受講上のアドバイス

看護は思いつきで行うものではなく、知識に基づく思考により導き出されるものです。看護理論家のウィーデンバック氏は「看護師には訓練された思考と感情が必要」と、ベナー氏は「思考することなしに看護は成立しない」と提唱されているように、看護の実践にはとにかく「考える」ことが必要になります。

では、看護師は対象者を目の前にしたとき、何を考え、どう行動につなげているのでしょうか？そこには、目の前にある現象を解釈→判断→実践するという臨床判断が存在しています。臨床判断の力をつけていくためには、看護学校で学ぶ基礎知識、「おや？」と思う問題意識、「もっと知りたい」という好奇心・探求心、そして臨地実習での経験が大切になります。

この科目は、みなさんが今後、臨床判断の力＝「看護師のように考える」力を身につけていくための入門編です。みなさんにも馴染みのある症状の事例を通して、今まさに学び始めた知識、みなさんの好奇心・探求心をフルに活用して、「看護師のように考える」を体験しましょう。

分野	科目 番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門	48	くらしと健康	1	15	1年次前期	専任教師	○

テキスト (発行所)	医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1
副教材 参考図書	医療福祉総合ガイドブック

●科目のねらい

人が「くらす」とはどのようなことか、人々と環境の関わりを理解し、地域の生活環境が健康に与えている影響を考える。

●学習目標

1. くらしとはどのようなことか考えられる。
2. 地域にくらす対象が多様であると理解できる。
3. 地域における対象の生活の場が多様であると理解できる。
4. 環境について理解できる。
5. 環境がくらしや健康に及ぼす影響について考えられる。
6. 地域で看護師が働く様々な場を知る。
7. くらしを支える看護について考えられる。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	自分のくらし	1. 自分自身の生活からくらしを考える	講義 個人ワーク
2回	ライフサイクルに応じたくらし	1. ライフサイクル別のくらし	講義 グループワーク
3回 (45分)		2. 様々なライフスタイルから見えること	
4回	生活の場としての地域	1. 居住地域の特性 2. 地域で行われている健康維持・増進、 介護予防を目的とした活動 3. 地域包括支援ケアシステム 4. 自助・互助・共助・公助	講義 グループワーク
5回	様々な療養生活の場	1. 地域の中の療養生活の場 (自宅・施設・病院 etc.) 2. その人らしいくらしと看護	講義 グループワーク
6回	地域・在宅看護の実践の場	1. 看護師が働く様々な場 2. 人々が求める看護師の役割	講義
7回	環境と健康	1. 環境の概念 2. 人間と環境の関連性 3. 物理的、文化・社会的、人的環境 4. 生活環境が健康に及ぼす影響	講義

8回	くらしを支える看護	1. 環境を整える意義 2. くらしの中のリスク・災害	講義 グループワーク
----	-----------	--------------------------------	---------------

●単位認定の方法

1. 出席について:15 時間のうち 80%以上の出席があること
 2. 評価の割合: 1)レポート課題① 40点 課題② 50点
2)ポートフォリオ 5点
①日々の学習内容を時系列にファイルする。
②自己学習の成果が分かる
 - 3)グループワーク参加態度 5点
①自己の意見を述べている ②他者の話を聞く態度。
- 1)~3)の合計点数が 60 点以上あること。

●事前課題 ワークシート①②③

- ① 第1回目の授業の一週間前に配布する
 - ② 第1回目の授業終了時に配布する。
 - ③ 第3回目の授業終了時に配布する。
- ※授業で使うため必ず取り組み持参すること。

●受講上のアドバイス

本講義では、自分自身の生活も含めて“くらしとは何か？”について考えてみてください。講義を一方的に聞くのではなく、生活や地域・健康に関する様々な知識を主体的に得ることと併せて、得た知識を繋げて視野を広げて欲しいと思っています。本講義の学びは、看護の対象と看護の役割を考える上での基盤となるものです。特に、ヘルスケア教育論や生活者看護論実習とも繋げて、くらしに対する考えを深めていって欲しいと願っています。

課題① 「看護覚え書」を読み内容をまとめて提出する。

- ・ナイチンゲールの考えや、新たに得た知識についてまとめる。
- ・本文のⅠ～ⅩⅢ章のうち、興味を持った 3 つを選び内容を要約する。
- ・本文の引用だけにならないように、自己の考えも併せて表現すること。

提出期限:5月9日

提出場所:別に指示する

形式:A4 サイズ 字数制限なし

課題② 「私が考えるくらしを支える看護とは」

- ・地域(環境)が健康に与える影響を述べること。
- ・くらしの中で看護師が環境を整える意義について述べること。
- ・自己の考えを表現すること。

提出期限:終講後 (日時については講義中に示す)

提出場所:別に指示する

形式:A4サイズ 字数制限なし 文章だけでなく表やグラフなどを使用することも可

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	49	ヘルスシステム論	1	30	1年次後期	専任教師 非常勤講師	○

テキスト (発行所)	医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2
副教材	医療福祉総合ガイドブック
参考図書	公衆衛生が見える

●科目のねらい

暮らしを支える看護について具体的に考え、地域・在宅看護の活動と役割を理解する。
地域・在宅看護論に関連する法律・制度・施策を学び、人々の暮らしを支える地域・在宅看護の実践に活かす。

●学習目標

1. 地域・在宅看護における「暮らしを支える看護」についてイメージできる。
2. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健康ニーズについて学び、看護の役割を理解する。
3. 人々の暮らしの中にあるリスクや災害について学び、看護の役割について理解する。
4. 地域・在宅看護の実践に必要な法律・制度・施策について学ぶ。
5. 地域・在宅看護マネジメントについて理解する。
6. 介護保険における様々な地域・在宅看護マネジメントを理解する。
7. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携を理解し、看護師に求められている役割について考える。
8. 様々な看護実践の場での看護の役割と活動を理解する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	地域における暮らしを支える看護	1. 暮らしを支える看護とは 2. 暮らしの環境を整える看護 3. 看護師に求められる能力	講義
2回	地域で暮らす対象者の理解	1. 広がる看護の対象 2. 地域における家族への看護 3. ライフステージに応じた看護	講義・GW
3回	暮らしにおけるリスクの理解	1. 暮らしにおけるリスク 2. 安全に暮らしつづけるための援助 3. 地域での暮らしにおける災害対策	講義・GW
4回	地域・在宅看護の実践の場と連携	1. 様々な地域・在宅看護実践の場 2. 多職種連携・多職種チームでの協働 3. 地域・在宅看護マネジメント 4. 地域連携クリニカルパス 5. 退院支援	講義・GW
5回	地域・在宅看護にかかわる制度① 介護保険・医療保険制度	1. 制度の歩み 2. 介護保険・医療保険制度の仕組み 3. 制度におけるサービス 4. 暮らしを支える看護との関連	講義

6回	地域・在宅看護にかかわる制度② 訪問看護の制度	1. 訪問看護制度の歩み 2. 訪問看護制度の対象者 3. 訪問看護ステーションに関する規程 4. 制度とその活用	講義 <u>小テスト</u>
7回			
8回	地域・在宅看護マネジメント① 地域包括支援センターの活動と 地域での取り組み	1. 地域包括支援センターの活動と役割 2. 居宅サービス計画(ケアプラン)の 作成	非常勤講師 講義・GW
9回			
10回	地域・在宅看護マネジメント② ケアマネージャーの活動と役割	1. 地域・在宅看護マネジメントとは 2. ケアマネージャーの活動と役割 3. サービス担当者会議の目的とサービ ス調整の実際	非常勤講師 講義・GW
11回			
12回	地域・在宅で暮らす対象者と家族を 考える① 介護負担が引き起こす社会問題	1. 家族介護に寄り引き起こされる問題 2. 高齢者虐待、介護離職、ダブルケア、 ヤングケアラー 3. レスパイトケア	講義 <u>課題レポート</u> GW
13回	地域・在宅で暮らす対象者と家族を 考える② 認知症高齢者の事例	1. 地域における家族への看護 2. 家族のセルフケア力 3. まとめ	講義 映像学習 GW・発表
14回			
15回			

●単位認定の方法

1. 出席について:30時間のうち80%以上の出席があること。
2. 評価の項目と割合割合

項目	配点
終講試験	80点
課題レポート	10点
小テスト	10点
合計	100点

3. 1の条件を満たし、かつ2の合計点が60点以上あること。

●受講上のアドバイス

今や看護の活躍の場は医療機関だけでなく、地域・在宅でのくらしや多様な施設に広がっています。そのうえで対象者の多様性・複雑性に対応するには、多職種と連携しながら看護を創造する力が必要です。ともに人々の地域でのくらしを支える看護を学びましょう！

●その他(課題レポートと小テスト)

1. 課題レポート

- 1)内容:新聞・雑誌やインターネットより、指示された内容に関する記事を選び、選んだ理由と自己の意見を述べる。選んだ記事はコピーしてレポートに添付して提出すること。
- 2)形式:レポート形式、枚数自由、表紙を付けること。提出期限は後日提示

2. 小テスト(10点分)

- 1)内容:地域・在宅看護の実践に必要な法律・制度・施策(介護保険制度・医療保険制度の仕組みと訪問看護等)について問う。
- 2)時期:第7回の講義中に実施(約10分)

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	50	ヘルスケア教育論 I	1	20	1年次前期	専任教師 健康生活支援 講習指導員	○

テキスト (発行所)	赤十字健康生活支援講習教本
副教材 参考図書	地域で支える認知症(日本赤十字社)

●科目のねらい

ヘルスプロモーションの考え方や赤十字健康生活支援講習を通して、地域でくらす高齢者が健やかに生きるために必要な健康増進の知識や支援、事故予防や自立に向けた自助・互助・共助などの考え方を学び、くらしを支えるための方法や指導ができる基礎的能力を身につける。

●学習目標

1. ヘルスプロモーションの考え方について理解する。
2. 地域でくらす人々に対して、くらしを支えるための知識・技術・態度を習得する。
3. 赤十字健康生活支援講習支援員を取得する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションとは	講義、実技
2回	赤十字健康生活支援講習	赤十字健康生活支援講習について 高齢者の健康と安全① 高齢者の理解	
3回		高齢者の健康と安全② 手当と観察	
4回		地域における支援活動① 地域における支援活動② レクリエーション、外出	
5回		日常生活における介護①—1 介護にあたって、居室の環境、移動	
6回		日常生活における介護①—2 居室の環境、移動	
7回		日常生活における介護②—1 車椅子への移動動作、食事	
			日常生活における介護③—1 排泄、着替え、清潔
		日常生活における介護③—2 清潔	

回数	主題	学習内容	履修形態、他
8回	赤十字健康生活支援講習	日常生活における介護④-1 認知症高齢者への対応	講義、実技
9回		日常生活における介護⑤-1 人生のエンディングを考える、介護者の健康管理	
10回		日常生活における介護⑤-2 癒しのハンドケア 学科試験	

●単位認定の方法

1. 赤十字健康生活支援講習規定に基づいた講習時間や検定の要件を満たし、赤十字健康生活支援講習支援員を取得する。
2. 出席について:30時間のうち80%以上の出席があること
1)と2)の要件を満たし、本科目の認定とする。

●受講上のアドバイス

本講義は、赤十字の理解につながる科目で、在学中に取得した資格を学校生活で活用することができます。在学中に学ぶ他の赤十字講習会と合わせて地域でくらす人々を支えるための知識・技術・態度を習得し、赤十字の一員としての自覚ができ、今後は地域でも貢献できることを期待しています。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門	55	成人看護学概論	1	30	1年次後期	専任教師	○

テキスト (発行所)	成人看護学概論 (メディカ出版)、セルフマネジメント (メディカ出版)
副教材、 参考図書	公衆衛生がみえる (メディックメディア)、国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)

学習のねらい

成人を取り巻く社会環境と生活を理解し、健康問題の動向や健康の保持・増進のための看護を理解する。

学習目標

1. ライフサイクルにおける成人期および成人期の対象を取り巻く社会と生活を理解する。
2. 成人期にある人々の健康のバランスに影響を及ぼす要因及び疾病予防・健康増進に関わる保健活動について理解する。
3. さまざまな健康観を踏まえた看護が考えられる。

各回の主題、履修形態、準備物品

講義：15回 (30時間)

学習内容：キーコンセプト；アンドラロジー、エンパワメント

ライフサイクルからみた成人期の特徴、成人期各期(青年期、壮年期、向老期)の健康問題と健康課題
統計からみた健康問題、ヘルスプロモーション、生活習慣病、ストレスコーピング、
労働に関する健康障害、セクシュアリティ

単位認定の方法

1. 出席について：30時間のうち24時間以上の出席があること
2. 終講試験またはレポート試験の100点満点中60点以上で合格とする

受講上のアドバイス

社会の現況など統計データについて、参考図書を積極的に活用して学びを深めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時間	担当者	実務経験
専門	61	高齢者ハートフルケア論	1	30	1年後期	専任教師 認知症看護認定 看護師	○

テキスト (発行所)	系統看護学講座 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)
副教材 参考図書	公衆衛生がみえる (メディックメディア) 医療福祉総合ガイドブック (医学書院) 配布プリント

●学習のねらい●

老年期の身体的・精神的・社会的特徴を知り、高齢者がどのような思いやニーズを持ち、どのような社会構造の中で生活をしているのかを学び、支援する為の看護を理解する。
認知症や聴力障害など高齢者との様々なコミュニケーション技術を身につける。

●学習目標●

- 1) 老年期の特徴を理解する
- 2) 加齢に伴う心身の変化と特徴、それらが生活に及ぼす影響について理解する
- 3) 老年期の対象をとりまく社会と暮らしの仕組みを理解する
- 4) 認知症について理解を深め、看護を考えることができる
- 5) 老年期の特徴に合わせたコミュニケーション方法を身につける
- 6) 老年看護の原則・目標を学び、老年看護の役割を理解する

●学習スケジュール●

回数	主題	学習内容	履修形態 準備物品 等
1	はじめに 老年期のイメージを表現しよう	1. ライフサイクルから見た老年期 2. 今の自分が抱いている老年期のイメージに気づく	持参物品 カラーペン・色鉛筆 講義・個人ワーク
2	高齢者が生きてきた時代について調べてみよう (昔の看護学生の生活をのぞいてみよう)	1. 高齢者生きてきた時代とは 2. 高齢者の多様な経験と価値観 サクセスフルエイジング 高齢者のセクシャリティ	講義 グループワーク Group マインドマップ
3	高齢者のその人らしい生き方の継続につて考えよう	1. 高齢者の生活の場 2. 喪失体験と獲得体験	講義 グループワーク 振り返り用紙
4	高齢者をとりまく社会の動向について調べてみよう	1. 統計から高齢者を捉える 2. 家族構成とニーズの変化 (日本と世界との比較) 3. 高齢者の権利擁護	講義 グループワーク 振り返り用紙
5	加齢現象が生活に及ぼす影響について考えよう	高齢者体験ツアー	高齢者疑似体験 レポート課題提示
6	加齢現象に伴う身体的・精神的機能の変化について学ぼう	加齢による身体的・精神的変化 老年症候群・フレイル	講義 振り返り用紙

7	認知症について学ぼう	1. 認知症とは 中核症状 BPSD	認知症看護認定看護師による 講義 グループワーク 演習 振り返り用紙
8		2. パーソン・センター・ド・ケア	
9		3. 認知症高齢者との コミュニケーション 4. 認知症をとりまく社会	
10	高齢者とのコミュニケーション方法を学ぼう	1. 難聴 2. 失語 3. 視覚障害、白内障	講義 演習 振り返り用紙
11	高齢者の特徴に合わせたレクリエーションを考えよう	1. レクリエーションとは	講義 個人ワーク グループワーク 発表会 振り返り用紙
12		2. 遊びリテーション	
13		3. 臨床美術	
14	老年看護に関する学びを共有しよう	各自が積み重ねてきた高齢者に関する学習の成果を発表しあい、学びを共有する	グループでの発表会
15	老年看護の目標・役割を考えよう	1. 老年看護の特徴 2. 高齢者を4つの側面から理解する 3. 高齢者の生活モデル	講義 振り返り用紙

●単位認定の方法●

- 1) 30 時間うち 24 時間以上の出席があること
- 2) 終講試験(筆記試験)80 点とレポート課題 10 点・振り返り用紙 10 点(1 点×10 回)を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とします。
- 3) レポート課題:第 5 回目の高齢者体験ツアー時に課題内容の提示をします。
決められた期日までに提出をしてください。A4 サイズ横置き、枚数 2 枚

●受講上のアドバイス●

高齢者の看護を実践する為には、みなさんが誕生する前の社会生活を理解することや、高齢者をとりまく社会の現状を知ること、将来高齢者をとり巻く社会がどうなっていくのかについて知ることが必要です。

高齢者に対するイメージを具体的に持ち、高齢者が生きてきた生活史を知ること、たくさんの発見や共感を得て欲しいと思います。知識を得るだけでなく、老年看護を実践する人として、高齢者を看護する上での判断能力や行動力も身につけて欲しいと思っています。

看護師を目指すみなさんは、これから多くの高齢者と接することになるでしょう。

その一歩として、この講義をきっかけに、高齢者や、高齢者の生活、社会に目を向けて欲しいと思っています。

認知症看護については、当院の認知症看護認定看護師による講義を予定しています。

認知症看護は、臨床で必ず必要となります。認知症看護における最新の知識を学ぶだけでなく、認知症の高齢者がどのようなことに困っているのか、そこにどのような支援が必要なのか、看護の役割について考えて欲しいと思います

みなさんが主体的に取り組める、面白い講義となるように講師として努力します。学生のみなさんも、高齢者に関する様々なことに興味を持って、積極的に受講してください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門	65	小児看護学概論	1	15	1年次 後期	専任教師	○

テキスト (発行所)	小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
副教材 参考図書	随時提示

科目のねらい

子どもと子どもを取り巻く環境を理解し、子どもの権利を尊重した小児看護の役割を理解する。

学習目標

1. 子どもの権利を尊重した小児看護の基本的態度が理解できる。
2. 子どもの成長・発達の特徴が理解できる
3. 小児看護の変遷と現代の子どもとその家族を取り巻く社会環境について理解できる。
4. 子どもに関する主な法律や政策について理解できる。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	小児看護学講義概要 小児看護の役割 子どもの理解 子どもの成長・発達の特徴①	・ガイダンス ・小児看護の特徴と役割 ・成長・発達とは(方向性と順序性・運動の発達・言語の発達など) ・成長・発達に影響する因子	講義
2回	子どもの成長・発達の特徴②	・地域で生活する子どもたち ・現代の家族の特徴	フィールドワーク
3回	子どもの権利と看護	・子ども観の変遷 ・世界の子ども ・子どもの権利条約 ・子どもの尊厳を守る看護倫理 ・現代の小児医療	講義 グループワーク
4回	子どもに関する法律と政策	・児童福祉法、母子保健法、小児医療の現状、小児慢性特定疾患など	講義
5回	小児看護学において用いられる 理論・概念	・ピアジェ認知発達理論 ・エリクソン発達理論	講義
6回	子どもの遊び	・子どもの遊びと活動の意義 ・各発達段階における遊びの特徴 ・入院患児の遊びの工夫	講義
7回	家族の特徴とアセスメント	・子どもにとっての家族とは ・家族アセスメント	講義 グループワーク
8回	小児看護が目指すもの	・小児看護の役割 ・まとめ	グループワーク

●単位認定の方法

1. 15 時間のうち、12 時間以上の出席があること
2. 評価の割合:以下の評価方法で 60 点以上の得点があること
 - 1)終講試験 80 点
 - 2)リフレクションカード 第1回から第 8 回の講義での学びを記入 10 点
 - 3)子どもの権利に関するレポート 10 点
3. 1・2 の要件が両方満たされ、単位認定とする

●受講上のアドバイス

近年の少子化・情報化社会・核家族化などにより、子どもを取り巻く社会は急激に変化しています。社会の変化、小児医療の変化の中で、子どもにまつわる問題に意識を高め、講義やグループワークを通して小児看護について考える授業展開となっています。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	履修時期	担当教師	実務経験
専門	69	ウィメンズヘルスケア論	1	30	1年次後期	専任教師 非常勤講師	○

テキスト（発行所）	新体系 看護学全書 母性看護学① 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護 （メヂカルフレンド社）
テキスト以外の教材、参考図書	公衆衛生がみえる

学習のねらい 人間の性と生殖の意義を理解し、生命の尊厳についての考えを深めると共に、ライフサイクル各期の特徴を理解し、女性が健康に健やかに一生を過ごせるよう、対象に応じた看護を学ぶ。

- 学習目標
1. 母性看護の対象の特徴を理解する。
 2. 人間の性と生殖の意義を理解する。
 3. 母子相互作用と母子関係の成立について理解する。母性意識と母性行動、母性愛の関係について学び、母性意識は発達していくものであることが理解できる。
 4. 生命の尊厳や生命倫理について考え、看護者としての役割を理解する。
 5. 母性看護の統計と法律より、わが国の今後の課題を理解する。
 6. ライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期）を健康に過ごすための看護と、健康逸脱時の看護を理解する。
 7. ライフサイクルを発達課題の視点から、母性看護の役割を理解する。
 8. ライフサイクルにおける思春期性教育・親性教室・不妊教室・更年期と老年期の健康教室などを通して、女性の健康と生活を支える地域の母性看護を学ぶ。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態 他
1回	母性看護学の学習目標と位置づけ 母性看護の概念	1) 母性看護学の学習目標 2) 基礎看護教育の中での母性看護の位置づけについて考える。 3) 母性看護とは ①母性看護の対象 ②母性看護の目的と重要な視点 ウィメンズヘルス、セクシュアリティ、 リプロダクティブヘルス/ライツ、ウエルネス、 エンパワーメント・ヘルスプロモーション、 セルフケア ③母性看護の機能と役割、種族保存や生殖の意義 ④母性看護に関わる職種と活動の場 ⑤母性看護学の学習の視点	講義
2回	母性の概念と母性看護の機能と役割	1) 母性と父性の概念、特性 2) 母親役割と父親役割 3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツの定義と基本的要素 4) 親になる過程と理論、家族発達	講義

3回	母性看護の対象の特徴	女性の身体的特徴 1) 解剖学的特徴と性周期 2) 生殖機能の特徴と変化からみた女性のライフサイクル・妊娠期の感情変化 妊娠シミュレーター「エンパシーベリー」を使用しての身体的・精神的変化	講義
4回	人間の性と生殖の意義	人間の性と生殖の概念 1) 女性と男性以外の性、性の多様性 ・性同一性障害 ・LGBTQ ・性分化疾患 2) 社会的性同一性（ジェンダー） ライフサイクルにおけるセクシャリティの発達	講義
5回	母性保健の統計	母性保健の統計を読み、母性看護の現況を具体的にイメージし、今後の母性看護のあり方、課題を考える。 母子保健統計に関連する用語の定義 ①出生②合計特殊出生率③周産期死亡④死産 ⑤妊産婦死亡⑥婚姻・離婚	講義
6回	母性保健の法律	①母子保健法・児童福祉法②労働基準法 ③男女雇用機会均等法④育児・介護休業法 ⑤母体保護法⑥死産の届け出に関する規定 ⑦戸籍法次世代育成支援対策基本法・少子化社会対策基本法・健やか親子21	GW
7回	母性保健の法律	発表	発表
8回	児童虐待と母子関係の課題・DV	児童虐待の現状と対応 児童虐待防止法 母子および父子関係の課題 配偶者暴力防止法 子育て世代包括支援センター・妊産婦メンタル ヘルス事業・マタニティブルーズと産後うつ	講義
9回	思春期・成熟期・更年期・老年期の看護	発表準備 地域・在宅看護論の「地域で生活する人々」体験から対象を理解したことを踏まえて発表	GW
10回	思春期・成熟期・更年期・老年期の看護	グループ発表	講義
11回	地域母性看護の実際 (思春期・成熟期・更年期・老年期の看護)	ライフサイクルにおける女性の健康と生活を支える地域の看護活動の実際（思春期・成熟期・更年期・老年期）	講義
12回	思春期の特徴	①第二性徴②月経の開始・月経異常・月経随伴症状 ③性感染症④思春期貧血⑤肥満と痩せより健康増進、健康維持、健康回復のための教育⑥10代妊娠と中絶	講義
13回	成熟期の特徴	①健康生活設計②健康管理のポイント③性生活④結婚、子育て、家族計画⑤生きがい⑥女性の生殖器疾患（喪失に伴う悲しみ、自尊感情の低下）⑦性生活の異常⑧不妊⑨精神の異常（うつ病、アルコール依存症、摂食障害）	講義

14回	更年期・老年期の特徴	①更年期障害②閉経③骨盤臓器脱④更年期うつ病 ⑤萎縮性膣炎、外陰炎⑥骨粗鬆症	講義
15回	母性看護学まとめ	①母性看護学の動向②人工妊娠中絶・生殖補助医療・ 出生前診断と倫理的問題 ③母性看護の役割と課題について	講義

単位認定の
方法

1. 30時間のうち、24時間以上の出席が必要である。
2. 試験100点満点で、60点以上を合格とする(グループ発表得点と終講試験を合わせる)。

受講上の
アドバイス

ウィメンズヘルスケア論では、母性とは何かを幅広くとらえリプロダクティブヘルス/ライツについて理解し、生命の倫理問題についても考える機会とする。女性の一生を通じた、母性の健康の保持・増進を旨とした看護の実践を理解するため、思春期・成熟期・更年期・老年期という流れの中での健康維持のための保健指導、健康逸脱時の看護を考えていく。母性の統計や法律にも目を向け、広くとらえられる能力や知識、実践能力を身につけるためグループワークでの展開も取り入れ、社会の変化に応じた看護師の役割を学ぶ。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	74	こころのセルフケア論	1	15	1年次後期	専任教師	○

テキスト (発行所)	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 照林社
参考図書	医療福祉総合ガイドブック 医学書院

学習のねらい

心の健康は、その人らしく生きることを支え、良好な人間関係や社会生活を送るための基盤をつくる。人の心の働きと生活との関連について知り、心の健康を保つためのよりよい生活とセルフケアについて学ぶ。

学習目標

1. 心の機能や反応に目を向けながら心の働きを知り、生活に及ぼす影響について理解する。
2. 精神の基礎的知識、理論的背景について学び、心の働きを理解する。

各回の主題、履修形態、準備物品

回数	主題	学習内容	履修形態・他
1回	こころとは	1. こころとは 2. 精神看護の基本的考え方	講義
2回	脳の機能からみる心の仕組み	1. 脳機能からみるこころの仕組み ・大脳皮質・感覚器・海馬・扁桃体・神経細胞 ・神経伝達物質	講義
3回	理論からみる心の仕組み(1)	理論からみるこころの仕組み ・フロイトの自我と防衛機制 ・発達理論と人間	講義
4回	理論からみる心の仕組み(2)	理論からみるこころの仕組み ・愛着形成と共感 ・ピアジェの認知発達理論	講義
5回	感情とこころ	感情とこころ ・感情の役割 ・自己理解と他者理解	講義
6回	危機とこころ	・危機理論 ・ストレス反応と看護 ・コーピング・適応	講義
7回	生活リズムと心	・睡眠と概日リズム ・自律神経のはたらき	講義
8回	こころのケア	さまざまな場面で心の反応 災害時など マインドフルネス・認知行動療法の基本	講義

単位認定の方法

1. 筆記試験、ワークシート、講義リフレクション、レポート課題を総合的に評価、点数化し、合計点が 60 点以上あること。内訳は、開講日に説明します。
 2. 履修時間のうち、80%以上の出席があること。
- 上記の1, 2の要件を満たし、単位認定とする。

受講上のアドバイス

近年、災害や紛争、感染症の流行など、思いがけない困難に人々はぶつかり、なんとか適応しようとして頑張っています。ITやデジタル化も急加速で普及し、私たちの身の回りの生活が目まぐるしく変化していく中で、自分に合うものを取り入れたり、時には断つような選択をせまられたり、これでよかったのだろうかと考えることはありませんか。人が心を穏やかにして過ごすためのセルフケアにも工夫が必要な社会となってきました。心は、目に見えませんが、誰もが存在していると信じています。本科目では、そのような心の在りかについて、また、あって当たり前のこころの存在について考え、こころへの作用やケアについて考えてみたいと思います。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務 経験
専門	77	精神障害の理解	1	15	1年次後期	院内講師	○

テキスト (発行所)	新体系 看護学全書 精神障害を持つ人の看護 精神看護学② メヂカルフレンド社
副教材、 参考図書	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 医療福祉総合ガイドブック 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 照林社

学習のねらい

精神疾患や精神障害者の症状、障害の種類、特徴、その原因や経過および診断検査と治療・療法について、また、精神医療の在り方について理解する。

学習目標

1. 精神症状や疾患の特性や、必要な治療・療法について理解する。
2. 精神医療の変遷や社会や法との関連や医療の実際を理解する。

各回の主題、履修形態、準備物品

講義：8回（15時間）

学習内容：主な精神疾患・障害の特徴（症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質使用による精神・行動の障害、統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害、気分障害、神経症、パーソナリティ障害、衝動性、知的障害、心理的発達障害等）
精神医療（精神医療の変遷、疾患の診断、治療、療法、法と医療、精神保健指定医）

単位認定の方法

1. 筆記試験（100点満点）の得点のうち、60点以上あること。
2. 履修時間のうち、80%以上の出席があること。
上記の1, 2の要件を満たし、単位認定とする。

受講上のアドバイス